

(3) フレームワークプランを取り巻く地域計画等

1) 都市計画等

5つのキャンパスの都市計画等の内容を下表に示す。

キャンパス	黒髪キャンパス	本荘キャンパス	大江キャンパス	京町キャンパス	城東町キャンパス
敷地面積	311,478㎡	135,815㎡	53,352㎡	51,547㎡	4,632㎡
	北地区 196,478㎡ 南地区 115,000㎡	北地区 84,966㎡ 中地区 25,088㎡ 南地区 25,761㎡	北地区 34,115㎡ 南地区 19,237㎡		
区域区分	市街化区域	市街化区域	市街化区域	市街化区域	市街化区域
地域地区	特定防災街区整備地区	準防火地域	準防火地域	準防火地域	準防火地域
	文教地区				
用途地域	第一種中高層住居専用地域	第二種住居地域	第二種住居地域	第二種中高層住居専用地域	商業地域
	第二種中高層住居専用地域	近隣商業地域	近隣商業地域	近隣商業地域	
		商業地域	商業地域		
熊本市景観条例における重点地域	白川沿岸地域（河川区域から20m）	白川沿岸地域（河川区域から20m）	—	熊本城周辺地域内の京町台地区	熊本城周辺地域内の一般地区
熊本市屋外広告物条例	学校の建造物及びその敷地は、屋外広告物第三種禁止地域に該当する。				

文教地区

昭和37年に特別用途地区の一つとして指定された文教地区172haには、本学黒髪キャンパスを含む大学3校、高校4校、中学3校、小学1校、特別支援学校1校がある。

- 文 小中学校
- ⊗ 高等学校
- (大) 文 大学

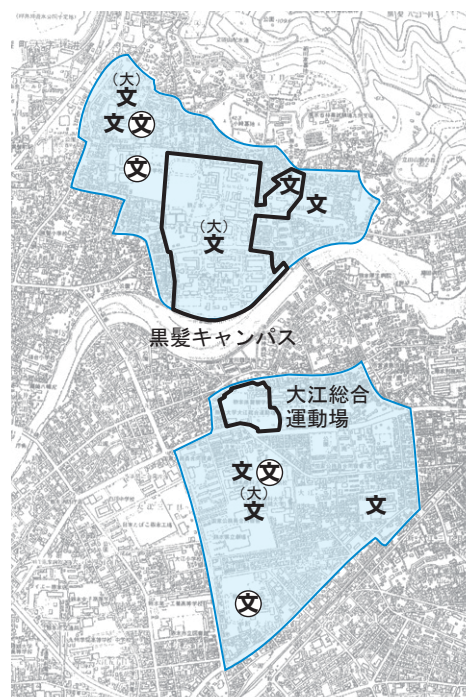


図. 文教地区

2) 熊本都市圏における役割

①「学都熊本」の中核を担う

熊本市内の8大学と1短大の学生数28,381人のうち、熊本大学の学生数は10,487人で全体の37.0%を占める（平成22年度版熊本市統計書 平成22年5月1日現在）。

②高度先進医療の実践

熊本大学医学部附属病院は、特定機能病院として高度で先進的な医療の研究開発及びその診療への応用実践を推進している。



図. 熊本市内の大学と総合病院(100床以上)の分布

③熊本市との包括連携協定

平成19年に締結された熊本市との包括連携協定に基づき、政策創造研究教育センターとの共同研究や、並木坂に開設した工学部まちなか工場の活動、教育学部の学生を家庭に派遣するユアフレンド事業等、地域と連動した取組を行っている。

④高等教育コンソーシアム熊本

県内の高等教育機関14校を正会員とし、特別会員として熊本県、熊本市、及び賛助会員7団体、協賛会員が協力して、地域社会の教育・文化の向上・発展に貢献している。

⑤くまもと都市戦略会議

平成22年に熊本県、熊本市、熊本大学の三者で、地域の課題や将来のビジョンについて協議する場として「くまもと都市戦略会議」が発足し、「コンベンション機能の充実」「学生のまちづくり」「魅力ある中心市街地の形成」等について熊本都市圏の政策を牽引する。

(4) 現況調査からの課題整理

各種現況調査からフレームワークプランに反映させるべき課題を整理する。

1) キャンパス利用者数の状況より

全学（黒髪、本荘、大江、京町、城東町キャンパス）の学生・教職員数の合計は2011年5月現在で約12,300人であり、大きな変動はないものと仮定し、現状の許容力を維持したキャンパス機能の強化・拡充が求められている。

2) 建物の老朽化状況、建物の耐震化状況より

新築・改修による建物機能の更新は黒髪キャンパスと本荘キャンパスの計画分で一応の整備を完了する。主な整備手法は改善・補修等に移行し、今後も計画的に進める必要がある。

耐震改修については、緊急性や予算等を勘案しながら、今後も計画的整備が望まれる。

3) 構内駐車場・駐輪場の設置状況より

駐車場については、規模・配置の適正化が求められている。附属病院がある本荘北キャンパスにおいては、外来者用の駐車スペースの確保等への対応が必要とされている。

駐輪場は、適正規模を維持するために長期駐輪の整理や撤去のルールづくり等により有効スペースを確保すること、適正配置を維持するために小規模分散配置できめ細やかな対応が望まれている。

4) 交通標識・誘導サインの設置状況より

サインの現状は老朽化・陳腐化の傾向にあり、統一性に欠ける。ガイドラインの策定が求められる。

5) 緑地の状況より

保存樹木を指定し維持・管理することが望まれる。

オープンスペースが必ずしも効果的に機能していないため、オープンスペースと緑化手法を適切に組み合わせることが必要である。

6) 設備の状況より

設備の現状は、老朽化・陳腐化の傾向にあり計画的な更新が必要である。

地球環境に優しいエネルギーへの転換を図ることが求められる。

(5) アンケート調査からの課題整理

学内のアンケート調査からフレームワークプランに反映させるべき課題を整理する。

1) 「好きな場所」

- ・場所としては、五高及びその周辺への回答が最も多く、赤門から五高までのサインカーブ及びその周辺への回答とあわせて多くの支持を得ている。
- ・総じて、個人的に好きな場所という主観的な問いに対しては、象徴的な並木や大木から、私だけが知っている小さな季節感まで、「緑」に起因するところが大きい。
- ・歴史的な建物や新しい建物についても、例えば「木々の間から垣間見える赤レンガ建築」「工学部百周年記念館のガラスに映る銀杏」など、「緑」や「自然環境」とセットで「好きな場所」として捉える傾向がある。
- ・本荘キャンパスは中地区の中庭への回答、大江キャンパスは薬用植物園への回答が最も多かった。
- ・自然環境を活かし、自然環境に調和させる景観形成の実現が課題である。

2) 「象徴的な場所」

- ・大学を代表する空間という客観的な問いに対しては、圧倒的に「五高記念館」である（全体の44%）。
- ・五高記念館に続く回答群は、赤門（12%）、工学部百周年記念館（7%）、木々・並木（7%）、事務局本館（6%）である。
- ・上位3項目は、「五高記念館」―「赤門」―「工学部百周年記念館」の軸線が浮かび上がり、シンボリックな空間として整備を行う。
- ・化学実験場や資料館等の古い建物と、附属病院や高層棟等の新しい建物の記述もある。

3) 「今後のキャンパス整備について考慮してほしいこと」

- ・大項目でみると「交通」への意見が最も多く、細項目の回答が多岐にわたる中で、「駐車場」「駐輪場」「道路・路面」に関連した要望が一群として突出しているため、優先的検討課題と位置づけ対処する。
- ・次いで大項目では「施設整備」が多く、細項目は多岐にわたり、教育研究施設の充実を図る。
- ・上記項目と差はあるものの「安心安全・災害対応」と「開かれたキャンパス」に関連する回答が次点に続いている。

4) 「長期展望における重要事項」

- ・全28項目のうち100票を超えた上位6項目を以下に示す。

1位:キャンパスの歴史・文化・緑化要素によるシンボルゾーンの形成 (129票) / 2位:案内板の多言語表記など、国際化に対応した支援環境の整備 (125票) / 3位:リフレッシュスペースや交流空間の確保 (123票) / 4位:アメニティ豊かなオープンスペース (外部の休憩空間・緑空間) の整備 (118票) / 5位:歩車道分離・歩行者専用空間の整備 (104票) / 6位:建物内外空間のユニバーサルデザイン化とバリアフリー化 (103票)

アンケートから導かれるキャンパス整備のイメージを以下に示す。

歴史・文化・自然に彩られたシンボリックで風格のある空間と、緑地などの豊かなオープンスペースを有した心地よい歩行者空間が広がり、キャンパス全体は国際化やユニバーサルデザインに対応した質の高い環境が整っている。